

下の句と決まり字を、線でつなごう。

1/7



上の句

決まり字

18 夢の通ひ路 人目よくらむ

・

・せ

22 むべ山風を 嵐といふらむ

・

・ほ

57 雲隠れにし 夜半の月かな

・

・ふ

70 いづこも同じ 秋の夕暮れ

・

・む

77 われても末にあはむとぞ思ふ

・

・さ

81 ただ有り明けの月ぞ残れる

・

・す

87 霧立ちのぼる 秋の夕暮れ

・

・め

上の句

決まり字

13 恋ぞつもりて 淵となりぬる

・

・うら

23 我が身一つの 秋にはあらねど

・

・つく

37 貫き止めぬ 玉ぞ散りける

・

・つき

40 物や思ふと 人の問ふまで

・

・うか

65 恋に朽ちなむ 名こそ惜しけれ

・

・しの

74 はげしかれとは 祈らぬものを

・

・しら

下の句と決まり字を、線でつなごう。

2/7



上の句

決まり字

21 有り明けの月を待ち出でつるかな

・いまは

46 ゆくへも知らぬ恋の道かな

・もも

61 今日九重に匂ひぬるかな

・ゆふ

63 人づてならでいふよしもがな

・もろ

66 花より外に知る人もなし

・いまこ

71 芦のまろやに秋風ぞ吹く

・いに

100 なほあまりある昔なりけり

・ゆら

上の句

決まり字

15 我が衣手に雪は降りつつ

・きみがためを

33 しづ心なく花の散るらむ

・ひとも

35 花ぞ昔の香にほひける

・きみがためは

50 長くもがなと思ひけるかな

・きり

91 衣かたしきひとりかも寝む

・ひさ

99 世を思ふ故にもの思ふ身は

・ひとは

下の句と決まり字を、線でつなごう。

3/7



上の句

決まり字

2 衣ほすてふ 天の香具山

・ちぎりき

9 我が身世にふるながめせし間に

・ちは

17 唐紅に 水くくるとは

・ちぎりお

42 末の松山 波越さじとは

・はなさ

67 かひなく立たむ 名こそ惜しけれ

・はるす

75 あはれ今年の 秋もいぬめり

・はなの

96 ふりゆくものは 我が身なりけり

・はるの

上の句

決まり字

6 白きを見れば 夜ぞ更けにける

・かぜを

28 人目も草も かれぬと思へば

・やまざ

32 流れもあへぬ 紅葉なりけり

・かさ

47 人こそ見えね 秋は来にけり

・かぜそ

48 くだけて物を 思ふ頃かな

・やまが

51 さしも知らじな 燃ゆる思ひを

・やへ

59 傾くまでの 月を見しかな

・かく

98 みそぎぞ夏の しるしなりける

・やす

下の句と決まり字を、線でつなごう。

4/7



上の句

決まり字

14 乱れそめにし 我ならなくに

・よのなかは

27 いつ見きとてか 恋しかるらむ

・よのなかよ

49 昼は消えつつ 物をこそ思へ

・みよ

62 よに逢坂の 関は許さじ

・みかき

83 山の奥にも 鹿ぞ鳴くなる

・みかの

85 閨のひまさへ つれなかりけり

・みせ

90 濡れにぞ濡れし 色は変はらず

・みち

93 海人の小舟の 綱手かなしも

・よも

94 ふるさと寒く 衣打つなり

・よを

上の句

決まり字

4 富士の高嶺に 雪は降りつつ

・たき

16 まつとし聞かば 今帰り来む

・たご

34 松も昔の 友ならなくに

・たま

55 名こそ流れて なほ聞こえけれ

・たち

73 外山の霞 たたずもあらなむ

・たか

89 忍ぶることの 弱りもぞする

・たれ

下の句と決まり字を、線でつなごう。

5/7



上の句

決まり字

10 知るも知らぬも 逢坂の関

・ ころに

24 紅葉の錦 神のまにまに

・ こひ

29 置きまどはせる 白菊の花

・ こぬ

41 人知れずこそ 思ひ初めしか

・ これ

68 恋しかるべき 夜半の月かな

・ この

97 焼くや藻塩の 身もこがれつつ

・ ころあ

上の句

決まり字

5 声聞く時ぞ 秋は悲しき

・ をぐ

26 今一度の 行幸待たなむ

・ おうこ

44 人をも身をも 恨みざらまし

・ おほえ

60 まだふみも見ず 天の橋立

・ おほけ

72 かけじや袖の 濡れもこそすれ

・ おも

82 憂きにたへぬは 涙なりけり

・ おく

95 我が立つ袖に 墨染の袖

・ おと

下の句と決まり字を、線でつなごう。

6/7



上の句

決まり字

- | | | | |
|-----------------|---------|---|--------|
| 8 世をうぢ山と | 人はいふなり | ・ | わたのはらこ |
| 11 人には告げよ | 海人の釣り舟 | ・ | わすら |
| 20 みをつくしても | 逢はむとぞ思ふ | ・ | わすれ |
| 38 人の命の惜しくもあるかな | | ・ | わがそ |
| 54 今日を限りの命ともがな | | ・ | わがい |
| 76 雲居にまがふ | 沖つ白波 | ・ | わたのはらや |
| 92 人こそ知らね | 乾く間もなし | ・ | わび |

上の句

決まり字

- | | | | |
|--------------------|---------|---|------|
| 19 逢はでこの世を過ぐしてよとや | | ・ | なげけ |
| 25 人に知られでくるよしもがな | | ・ | ながか |
| 36 雲のいづこに | 月宿るらむ | ・ | なげき |
| 53 いかにかに久しきものとかは知る | | ・ | なつ |
| 80 乱れてけさは | 物をこそ思へ | ・ | なにはえ |
| 84 憂しと見し世ぞ | 今は恋しき | ・ | なにし |
| 86 かこち顔なるわが | 涙かな | ・ | なにはが |
| 88 みをつくしてや | 恋ひわたるべき | ・ | ながら |

下の句と決まり字を、線でつなごう。

7/7



上の句

決まり字

- | | |
|------------------|----------|
| 1 わが衣手は露にぬれつつ | ・あし |
| 3 長々し夜を独りかも寝む | ・あさぼらけ あ |
| 31 吉野の里に降れる白雪 | ・あきの |
| 39 あまりてなどか人の恋しき | ・あわぢ |
| 52 なほ恨めしき朝ぼらけかな | ・あきか |
| 64 あらはれ渡る瀬々の網代木 | ・あけ |
| 78 幾夜寝覚めぬ須磨の関守 | ・あさぼらけ う |
| 79 もれ出づる月の影のさやけさ | ・あさぢ |

上の句

決まり字

- | | |
|-------------------|------|
| 7 三笠の山に出でし月かも | ・あはれ |
| 12 をとめの姿しばしとどめむ | ・ありま |
| 30 暁ばかり憂きものはなし | ・あらし |
| 43 昔は物を思はざりけり | ・あまつ |
| 45 身のいたづらになりぬべきかな | ・ありあ |
| 56 今一度の逢ふこともがな | ・あひ |
| 58 いでそよ人を忘れやはする | ・あまの |
| 69 龍田の川の錦なりけり | ・あらざ |